

5 平成30年度 学校評価表

(別紙様式4-1)

(県立高等学校・中学校用)

(天草高等学校 全日制) 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標
「平成30年度県立学校における教育指導の重点」及び「平成30年度人権教育取組の方向」を基盤に据え、本校の三綱領「正大・剛健・寛厚」及び教育スローガン「求学志成」のもと、個性豊かな人材の育成と規律ある活気溢れる学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立を図り、豊かな人間性の育成に努める。 (2) 自主的精神を高め、自らを律する態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力向上を図るとともに、生徒自ら問題を解決する力の育成に努める。 (3) 心身の健康、体力の向上を図るとともに、創造性や感性を育む体験活動の推進に努める。 (4) 地域の拠点校として、地域に開かれた学校づくりに努め、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応える教育活動を進める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間、および「教育の日」などを活用して、保護者や地域の方々に授業を積極的に公開する 近隣の小・中学校、県内の高校にも案内し、連携を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が立案し、年間2回以上の公開授業等を実施する 教務部が立案し、体験入学を実施する 	A	<p>【△】公開授業は、6月と11月に各2週間ずつ実施した。保護者・地域の方の参観は昨年より減少した。</p> <p>【○】体験入学は7月24日(火)に実施し中学生約280名の参加があった。同日中学校職員・保護者向け説明会も開催し、100名以上が参加された。また、11月29日には天草市民センターで夜間説明会を実施し、60名の参加があった。</p>
		広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新・充実を図る 生徒の活動の様子を、学区内中学生や地域の方々に積極的に情報発信する 中学校を訪問して、学校紹介を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が立案し、学校HPの更新頻度を高める 教務部が中心となり、学校紹介DVDを作成し、広報に用いる アンケートを実施し、広報活動に反映させる 	A	<p>【○】生徒の活動を中心に、毎日更新することができた。特に、天草サイエンスアカデミーなどの外部申込みができる時期や修学旅行期間中などにアクセス数が大幅に増えた。</p> <p>【○】学校紹介DVDを作成し、主に、中学校説明会で使用した。また、本校の特色の一つであるSSHの取組をまとめたものも作成し、活用した。</p> <p>【○】会議の2日前までに資料を届けることができた。当日は、資料を読み込んだ上での議論が出来、活発な意見交換が出来た。</p>
		学校評議員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員を含めた活発な意見交換の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の取組について事前に資料を提示し、協議の時間を確保する 	A	<p>【○】会議の2日前までに資料を届けることができた。当日は、資料を読み込んだ上での議論が出来、活発な意見交換が出来た。</p>
		育友会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 育友会総会や地区別懇談会、学級懇談会の充実を図る 学校行事、諸行事への保護者の積極的な参加を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 総務部及び各学年が立案し学校全体で取り組む メール配信サービスの利用と学校ホームページを活用し、積極的に学校行事への参加を促す 	A	<p>【○】育友会総会の日程を変更して実施した。再度、総会への参加を増やす検討が必要である。</p> <p>【○】すべての学校行事で、メール配信を利用しての参加の呼びかけができ、行事の参加者が増えた。また各役員会での呼びかけで、多くの保護者を誘ってもらっていた。</p>
	安全管理の取組	不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止に対し全職員で主体的に取り組む雰囲気醸成する 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修を定期的に行う 職員朝会等を通じて適時リスク管理についての啓発を行う 	A	<p>【○】年間計画に基づき、職員研修を行うと共に、学校の状況に応じて臨時的研修も実施した。また、職員朝会での啓発とともに、通知文等をデータ化し共有スペースに掲載し啓発を図った。</p>
教育環境の整備	学習環境の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学びを推進し、自学時間を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生は朝課外を朝自学に変更する 教室での黙学と学習室での相互学習等を促し、生徒が自らの実態に合わせて学習する姿勢を育てる 3年部が企画し、土日祝日に学校開放を行う 	A	<p>【○】朝自学に変更したことにより、生徒が主体的に学ぶ環境づくりを行うことができた。ほとんどの生徒が、朝自学に意欲的に取り組み、基礎学力を定着させることができた。</p> <p>【○】学校開放は、受験指導が本格化する6月から担当者を決めて実施した。1日40人~60人の3年生が活用していた。</p>	

	学校改革	校務改革	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選と業務時間の見直しを図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自学など、前年度の学校改革委員会で検討した具体策を推進し、課題があれば改訂していく 	A	<p>【○】各分掌で取組を推進した。3学期に課題等の整理を行い、更なる改善に向けての検討を行った。検討事項は次年度以降の取組に反映させる。</p>
		授業改革	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が授業を改善する 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーティーチャー（指導教諭）が職員の授業を参観し、様々なアドバイスを行う ・教務部内に「授業改革プロジェクト」を設置し、反転授業など多様な授業形態の実践提案および各種発信を行う ・2学期末に授業に関する生徒調査を行い、改善状況を把握する 	A	<p>【○】公開授業期間を活用し、スーパーティーチャーの研究授業を実施し、県内から多くの参観があった。また、スーパーティーチャーは他教科の授業改善にも適切な助言を行い、効果があらわれている。</p> <p>【○】2学期末に本年度2回目の授業改善アンケートを実施した。1学期の結果を受け、多くの先生の授業が改善され、評価も上昇していた。</p>
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の流れに見通しを持たせ、課題や提出物等の管理を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳（Forsight）に取り組むべき課題や学習計画などを記入させ、個にあった学習スタイルの確立を目指す ・年間2回の宅習時間調査を行い、学年ごとに対策を講じる 	B	<p>【○】手帳の活用について学年全体に説明をして、面談や講演会等での有効な活用を促した。宅習時間調査以外に、月行事予定を載せた毎日の宅習時間記録を行い、先を見据えた計画的な学習と、日々反省・改善する習慣化に努めた。学年が進むにつれ、使用のスタイルが確立し、主体的に利用する生徒が多くなった。</p> <p>【△】家庭学習時間調査は6月と10月の2回実施した。10月の宅習時間では1・2学年は6月を下回っていた。3学年は1,500分以上が160人（6月からプラス63人）である。1・2年次における継続的な自学力の育成が課題である。宅習時間調査の結果から、国数英で課題の量や頻度の調整をしたり、学習時間の短い生徒については、面談を通して学習の仕方や課題について解決方法を模索する機会を設けるなどして、改善に努めた。</p>
		3年間を見通した指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを作成し、見通しを立てた指導を行う ・学年会等による職員の情報の共有及び連携 ・定期考査の個人成績の変動がわかる表を作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に各教科でシラバスを作成して、1年または3年間の授業計画を全職員で確認する ・学年会等で生徒についての情報交換を活発に行い、他の授業での様子も把握できるようにする ・定期考査の個人成績の変化を見ることが出来る表を生徒に試験ごとに記入させ、次年度の担任に引き継いでいく 	A	<p>【○】年度当初に各学年で、授業担当者を実施し、各教科の1年間の計画についてシラバスの検討を行った。また、支援を必要とする生徒について共通理解を図ることができた。</p> <p>【○】8月と12月に各学年で学力検討会を行った。7月、11月の模試等の成績状況を受け、学習内容の定着度を確認し、授業の進捗状況の調整や指導法について検討した。</p>
		習熟度別学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学習到達度に応じた学習をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・英語で、学習到達度に応じた展開授業を行い、定期的に到達度を確認し、クラス替えを行う 	A	<p>【○】習熟度別にクラスを展開している教科では、定期考査・模試等の結果を受け、定期的にクラスを再編成している。効果的に授業が展開できている。</p>
	教員の指導力の向上	学習指導法等の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教科で年間2回以上の研究授業を行う ・教材研究の質の向上を図る ・作問力の向上を図る ・模試分析力の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ授業に臨む ・生徒には、具体的にどう努力すべきかを明確に提示する ・定期的に、教科会で検討する ・東京大学、京都大学、九州大学、熊本大学の問題を5月までに解答 	B	<p>【○】公開授業期間は他教科・他学年の授業を参観することで、各自の授業改善も図られている。</p> <p>【△】研究授業の実施は合計12回であり、昨年よりも減少した。さらに授業改善のために時間の余裕があればと思う。</p> <p>【○】教科会を定期的に開催し、授業の質の向上のための協議や考査問題検討が意欲的に行われている。</p> <p>【△】5教科担当の教員にアンケート</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 模試データリリース 3 日以内に全職員に結果を還元し、各教科科目で分析シートを作成する 		<p>を実施した結果、全体として問題分析が終了したのは約半数であった。 【対策】 担当学年や教科の状況に応じて、教科で研鑽方法を検討する。 【○】 模試データリリース直後に進路指導部が分析したデータを還元できた。</p>
キャリア教育・進路指導	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	第一志望現役合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関大学合格 10 名以上を含め、現役による国公立大学 90 名以上を目指す ・ 1、2 年生は国・数・英で模擬試験において偏差値 52 以上を目指す。 ・ 3 年生の全科目で模擬試験において平均偏差値 50 以上を目指す。 ・ センター試験の得点が全科目全国平均点以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路検討会を年間に 3 年生 5 回、2 年生 2 回、1 年生 1 回以上行う ・ 確認考査、単元テストなどの小テストを行い、受験基礎力を養成する ・ 二者面談や教科面談を行う ・ 小論文対策の早期化と継続を図る ・ 推薦、AO 入試対策として専門分野の強化を図る 	B	<p>【○】 進路検討会は左記の目標回数どおりに実施できた。目的、資料、内容の充実も図られたと言える。</p> <p>【○】 国数英において基礎学力を充実させるための小テストを実施している。さらに受験学力の定着に向けた指導力の向上が求められる。</p> <p>【○】 年間 5 回以上の担任面談を実施した。必要に応じて教科面談も行った。</p> <p>【△】 小論文対策については総合的な学習の時間で取り組んではいるものの、文章表現力において課題があり、細やかな指導が今後も求められる</p> <p>【○】 推薦・AO 入試対策については、小論文や面接指導を全職員で取り組むことができた。</p>
		総合的な学習の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の進路についての意識を高めさせる ・ 知の注入とともに自分の考えを表現させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年間の計画に基づき、面談等で生徒の状況を確認しながら実施する ・ 討論会や調査内容の発表等の場を設ける ・ インターンシップおよびキャリア教育を推進する 	A	<p>【○】 3 年間を見通した計画に従って、概ね順調に進んでいる。</p> <p>【○】 1 年生及び 2 年 AS クラスは、SSH 学校設定科目「天草サイエンス」に代替し、地域をテーマとする課題研究を実施し、学びを深めることができた。</p> <p>【○】 2 年理系と 2 年文系は、大学研究などを行った。夏休みにはオープンキャンパスへの参加を推奨することで、自らの適性を知り、選択肢の具体的検討に役立てた。</p> <p>【○】 昨年度よりも多い 43 名の生徒がインターンシップに参加し、職業意識を高めることができた。</p>
	多様化する生徒の個々の進路目標への対応	進路意識の高揚・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年、年間 20 回程度の進路情報を提供する ・ 各学年の進路講演会、大学出張講義、予備校や大学によるガイダンスを実施する ・ 定期的に学年通信や進路通信を発行し、進路情報を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路の手引き『求學志成』と、「進路ニュース」を作成する ・ 学年ごとに時期、段階とニーズにあった内容で講演会を実施する ・ 受験形態を熟知し、生徒の個性に合った進学指導を実施する ・ 生徒に進路選択の幅が広がるような内容を提供するとともに、保護者にもわかりやすく情報提供できるようにする 	A	<p>【○】 『求學志成』は予定通りのものを作成することができた。</p> <p>【○】 進路ニュースについては、年 15 回発行することができた。</p> <p>【○】 各種講演会については、優れた講師陣に来ていただき有意義であった。</p> <p>【△】 受験形態は年々複雑になり、全体の把握は難しい。新しい情報を常に仕入ながら、チェック機能を十分に働かせる必要がある。</p> <p>【○】 7 月と 9 月に生徒・保護者に向けた進路講演会を実施した。また、2 月には保護者向けの進路学習会を実施した。</p>

		進路希望に応じた個人指導	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による二者面談を年間6回以上実施する ・教師が教科指導力を高いレベルで養い、いかなる大学進学に対しても積極的指導を実践する ・各学期に2回以上の進路面談時間を設ける ・家庭訪問を活用し、保護者の意向を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に2回以上は担任が二者面談を実施する ・進路指導部が大学や入試などの情報を積極的に提供する ・個人の目標や特性を把握し、進路選択の幅を広げていく ・夏季休業中の家庭訪問を活用し、保護者の意向も確認しながら、進路目標を設定していく 	A	<p>【○】面談等の目標値は概ね達成できている。面談については学校行事に織り込んで、重要な取組であることを共有していきたい。</p> <p>【△】様々な資料や情報を積極的に提供した。進路ニュース等の進路指導部からの情報提供については、内容を充実させる必要がある。</p> <p>【○】学期2回の二者面談や、夏の家庭訪問と三者面談はもちろん、必要に応じた担任面談を通して生徒理解に努め、教科との連携を図ることで、生徒の状況に合った指導を継続的かつ組織的に行った。家庭訪問では、保護者と担任が進路について十分に話し合う機会となった。</p>
	高大接続改革への対応	大学入学共通テスト等入試制度改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動記録を残すシステム作りを行う ・自ら課題を求め、学ぶ生徒を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに校内委員会を設置し、e-ポートフォリオ導入について議論する ・1、2年生対象に朝自学を導入する 	B	<p>【△】委員会での決議後、1年生の3学期からe-ポートフォリオ機能を実際に運用することが決まった。また、3学期には英語の外部検定試験についても議論した。今後、関係分掌との連携が必要である。本年度は動き出しが遅く、十分な検証が出来ていないことが課題となった。</p> <p>【○】朝自学のガイドラインを作成し、全職員が同じ目線で自学監督ができるように工夫した。生徒向けアンケートからも朝自学が概ねスムーズに導入されていると見て取れる。</p>
生徒指導	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上の一斉委員会を開催する ・毎月、生徒朝会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自ら運営に携わる ・生徒指導部職員が指導助言を行う ・一斉委員会の内容を、生徒朝会で取り上げ、全校生徒への委員会活動の周知を図る 	A	<p>【○】体育大会や文化祭などの学校行事の運営において、生徒会執行部を中心に積極的に携わった。また、校内での挨拶の活性化を図るため、あいさつ月間を設けるなど新しい取り組みも行った。</p> <p>【○】生徒一斉委員会→生徒朝礼の流れが確立し、各委員会からの発言も増加した。2学期からは校歌を元気に歌う取り組みもなされた。</p>
		部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・活動時間短縮に伴う効率化を図る ・顧問割当の再編を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動時間が短縮されたことで、各部活動で活動内容を見直し、効果的な練習に取り組む ・大会において引率顧問が不足する場合は、担当部活動の枠を超えて補う 	B	<p>【○】日課変更に伴い、平日の活動時間は削減された。各部活動において活動内容の改善がなされ、上位進出する部活動もある。</p> <p>【△】顧問が大会引率できない場合は、他の職員で引率を代行することができた。しかし、負担が偏りもみられ、解消に向けた規程の作成などが必要である。</p>
	基本的な生活習慣の確立	ボランティア精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒企画のボランティアを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部依頼のボランティアに限らず、生徒会や部活動企画の奉仕活動を積極的に実施する 	A	<p>【○】生徒会執行部とボランティア委員会でユニセフ募金を実施するなど、昨年度にはない活動も行った。またAS1の探求活動において、途上国の支援活動に取り組む班もあり、ボランティア活動への意識の高まりが感じられた。</p>
		交通モラルとマナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上の登校指導の実施 ・原付通学生集会を毎月実施する ・交通違反0を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に全職員参加の登校指導を行う ・原付通学生の集会を実施し、具体的な事故・違反事例を取り上げ、交通規範の高揚に努める 	B	<p>【△】全校職員による登校指導は、年度当初4月の1回の実施。その後は、生徒指導部と各学年で連携し、5分前着席を促した。</p> <p>【△】月1回の原付通学生集会を実施、交通法規の確認や原付の安全点検などを行った。違反者への指導や注意の件数は減少したが、交通違反による特別指導0を達成することはできなかった。</p>
		規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回以上の頭髮服装検査を実施し、違反0を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、掃除といった日常生活での場面を指導の場と捉え、全職員でルール遵守の意義を生徒に伝える 	A	<p>【○】頭髮服装検査は、年間8回実施。各学年で基準の周知、指導方法の再確認を行い、全職員で共通認識のもと指導にあたった。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・新たなあいさつ推進運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部を中心に、あいさつの意識高揚を目的とした運動を企画・実施する 		<ul style="list-style-type: none"> 【○】本年度より11月をあいさつ月間とし、生徒会執行部が中心となって、あいさつの励行を全生徒に訴えた。 	
人権教育の推進	命を大切に する心を 育む指 導	いじめの 根絶	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対に許されないことであることを生徒に理解させる ・いじめ根絶に向けて、実態把握と迅速な対応を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上のいじめに関するアンケートを実施するとともに、いじめ通報アプリを活用し、いじめの早期発見に努める。 ・情報モラル教育を行い、SNS等への書き込みにおけるモラル向上を図る。 ・全職員で生徒情報の共有をし、連携を密にする 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】各学期1回はいじめに関するアンケート(心のアンケートを含む)を実施。気になる回答をした生徒に対しては、担任と連携し状況の把握に努め、迅速な対応を行った。また、生徒指導部会、学年会で情報の共有を行った。 【○】情報モラル講演会の実施時期を早め、5月に行った。長期休業、修学旅行前など、折を見てSNSの使用について注意を促した。 	
		命を大切に する心の 育成	<ul style="list-style-type: none"> ・職員及び生徒に「命を大切に する心」を育むことの重要性について理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を大切に する心」について考えさせる全校集会・LHRを企画・実施する 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】各学期に人権LHRを行い、友人との関わり方や同問題などを取り上げた。12月にはアサーションについて、人権教育講演会を実施。人権を尊重し、相手の立場に立って考えることの大切さについて、生徒の理解を促すことができた。 	
		教育相談 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回以上生徒支援委員会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を分析し、担任に指導助言を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【△】カウンセリング委員会は緊急時に2回実施した。 [対策]年間5回以上という目標実施回数を検討し見直す。 【○】生徒の状況把握や協議を行い、協議内容は学年で生徒への支援に生かすことができた。 【○】カウンセリングの時間が年間65時間と十分に確保され、生徒・保護者・教職員ともに昨年度より充実した相談を行うことができた。 【○】休学中の生徒や、学校生活への不安感から体調不良を起こしやすい生徒が不安感を軽減でき、カウンセリング効果が得られた。 【○】カウンセリング用PCと、カウンセラーの記録時間を確保し、即日報告書を作成したため、カウンセリング後の担任へのフィードバックがスムーズに行えた。 	
		豊かな人 間性の育 成	読書の推 進	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出数の1人当たり14冊以上を目指す ・「朝の読書」を徹底させる ・利用率の増加(貸出数0冊の生徒を減らす)を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・良書の選定と、「図書館便り」の充実及び年間10回以上の発行 ・全職員、全生徒で一斉に行う ・多彩な分野の蔵書を揃え、生徒の情操や知的好奇心に訴えかける 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【△】生徒貸出冊数6247冊(～1/15)。一人あたり9冊に大きく減少した(昨年度9600冊、一人あたり13冊)。日課の変更に伴い、生徒の読書時間が激減したことが原因である。 【○】職員の推薦・リクエストの図書を揃え、教職員による読書活動推進に繋げている。職員室文庫も20日周期で更新している
			人生観・職 業観の育 成	<ul style="list-style-type: none"> ・人生観・職業観を養う講演会や人権教育等のLHRの講義を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会、育友会とも連携し、地域の方々や同窓生を講師に招く ・HRでの活動を通じ、日常の指導の中で、生き方や在り方について考える機会を増やす 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】SSHの授業や講演会、天高総合大学など、様々な講演会を通して地域の課題を知り、人生観・職業観の育成に繋げることができた。
			道徳教育 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標に基づき教育活動の全領域において道徳教育を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間としての在り方 生き方」に関する講演会を開催する 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】人権教育講演会を通じて、自分の生き方を振り返るきっかけとすることができた。 【○】SSHの授業や講演会、天高総合大学など、様々な講演会を通じて地域の課題を知り、人生観・職業観の育成に繋げることができた。

健康安全 教育の 推進	健康・安全 教育の 推進と環 境整備の 推進	健康教育 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告生徒の受診率を向上させる ・生徒の健康状態に応じた個別指導を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前や定期考査前を目処に治療勧告書を渡し、治療の必要性を呼びかける。メール配信を利用する。 ・健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる 	A	<p>【○】う歯・視力の受診率向上を目指し、学年との連携や面談の結果、12/20現在で視力は64.6%(昨年43.4%)、う歯は51.4%(昨年42.9%)3月に再勧告を行う。</p> <p>【○】健康観察および担任との情報交換により、生徒の様子を把握でき、感染症の対応や、保健指導に役立てることができた。</p>
		環境美化 の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・時間一杯清掃し、校内美化に努める ・ごみの分別を習慣化する ・学校版環境ISO活動(エコスクール)に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立てて計画的に実施する。 ・全生徒が掃除にあたり、担当職員が率先垂範して指導にあたる ・分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により、分別の習慣化を図る ・保健部会、生徒生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む 	A	<p>【○】掃除時間、細やかなところまで清掃をしていた。廊下のごみ箱のごみの分別を今後徹底していくことが課題である。</p> <p>【○】学期ごとに美化コンクールを実施した。評価項目を増やすことで、クラスで競い合い、差がつきやすくなることでレベルが年々上がっており意識が向上したことがうかがえる。</p> <p>【○】毎月エコスクールチェックを行う計画であったが、業務削減のため実施せず。衛生委員会からの呼びかけを行うことに変更した。水道使用量は前年度比88%、電気使用量は85%で、節水節電の意識は高まった</p>
		整備の徹 底	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、安全点検を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除用具の点検を定期的に行い、迅速に改善する ・安全点検を受けて、危険箇所の改善を迅速に行う 	A	<p>【○】定期的に安全点検を実施することができた。危険箇所・修繕箇所については事務部へ速やかに報告し、教育活動における生徒の安全確保に努めた。事務部でも迅速に対応市、安全確保が行われた。</p>
いじめ の防 止等	指導体制 の組織的 整備	組織の実 効的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・縦(管理職、他学年)と横(学年団)のつながりを密接にした組織づくりをする。 ・管理職を含む複数の教職員、専門的な知識を有する臨床心理士等による「いじめ対策拡大委員会」を実効的に活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・素早い情報共有と、迅速な対応を心がけて行動する。また、保護者にも連絡をとり、対応の説明をしていく。 ・生徒指導部会やアンケートで得られた情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う ・年間指導計画の作成・実行・検証・修正の中核的役割を果たす ・情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う 	A	<p>【○】毎週行われる学年会や生徒指導部会の中で欠席が多いなどの気になる生徒の情報共有を行い、連携して迅速な対応を行っている。またいじめが疑われる事案に関しては、該当生徒の面談や保護者との情報共有なども含めて、状況把握、問題解決にあたっている。</p> <p>【○】年3回のいじめ対策拡大委員会を開き、外部委員から多角的に学校の取組や対応を見ていただき、評価及び指導助言を受けることが出来た。</p>
	未然防止 及び早期 発見のた めの取組 みの強化	いじめの 防止	<ul style="list-style-type: none"> ・互いのよさや個性が大切にされ一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の講話や講習会、LHRを有効に活用し一人ひとりの心に迫る ・「心のきずなを深める月間」で、生徒会を中心とした取組を通して、生徒一人一人のいじめ防止の意識を高める ・定期的にクラスや学年で雰囲気づくりに関する声掛けや、標語などの掲示をしていく 	A	<p>【○】心のきずなを深める月間で、全校生徒に標語を募集し、生徒一人一人がいじめ防止や相手を思いやる言動について考える機会を設け、理解を深めた。</p> <p>【○】定期的に面談を行う中で、個々の生徒の状況把握を図るとともに、人間関係や生活における悩みなどの生徒理解に努めた。</p>
		いじめの 早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめはどの学校にも起こりうる」という認識に基づき積極的に対応する ・いじめに対する意識を高く持ち情報共有を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1度のアンケートや、個人面談などを通じて、生徒の異変やサインについて積極的な実態把握に努める ・いじめ通報アプリも活用し、いじめの早期発見に努める ・学年会などの情報を生徒指導部会で共有する 	A	<p>【○】毎週行われる学年会や生徒指導部会の中で欠席が多いなどの気になる生徒の情報共有を行い、連携して迅速な対応を行った。またいじめに関するアンケートを学期ごとに実施し、生徒の心の状態の把握に努めた。</p>

		いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・解決に向けて組織的に迅速な対応を行う ・組織的に対応し早期解決をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「対応マニュアル」に従い情報収集と記録確認を行い、組織的に迅速に解決する ・情報収集と対応の共通認識を図り、正確に記録を残す 	A	【〇】いじめが疑われる事案に関しては、該当生徒の面談などを通して状況を詳細に把握し、改善に向けて連携を取りながら積極的に対応できた。学期ごとのいじめ対策委員会にて、S S Wや学校評議委員の助言も参考にして、その後の対応に取り組んだ。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	防災型コミュニティスクール	地域連携の組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や自治体等との連携した防災対策の基盤を作り、活動へつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や自治体とともに近隣学校とも連携や情報共有を行う ・作成した対応マニュアルのチェックを行い、より実効性の高いものにする 	A	【〇】年間2回の防災避難訓練（火災と地震・津波）学校運営協議会も2回開催して、避難所運営マニュアルの検討ができた。合同の協議会も開催でき連携と情報共有も行った。次年度は、小学校との合同避難訓練を地域と連携して実施していきたい。
	高校間の連携	地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・天草地域の高校の取組を地域住民に周知し、魅力を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・天草地区の高校が中学生、保護者、教職員に魅力を発信する機会を企画し、実施する 	A	<p>【〇】生徒の活動をHPにほぼ毎日掲載することができた。天草市の市民講座で赤潮やスナメリの研究発表を行い、漁業関係者をはじめとする地域の方への発信ができた。</p> <p>【〇】天草地区の高等学校合同での魅力発信の企画として、7月にクリアファイルを作成し、全中学生に配布した。また、2月には、中学1・2年生及び保護者を対象とした魅力発信のイベントを行った。</p>

4 学校関係者評価

- ・入学志願者増について課題だと感じる。全日制も定員割れとなれば、学力が高い生徒もいて、生徒の学力差が大きいのではないか。地域で生徒を育てるという事は大切である。今後も、当該への流出を防ぐための取組や学校の魅力をアピールするような取組をして欲しい。
- ・ボランティアへの参加は大切である。ボランティア活動を通じて、自己肯定感を高めた生徒の実例を聞いたことがある。本校の生徒が校外での活動をしていることなどはFacebookなどで広く発信している。地域の人々は見ている。そのような活動も学校は十分認識して、理解して欲しい。
- ・SNSやスマホの使用状況について、ゲーム依存の問題が気になっている。時間を決めて行うなどについて指導を行う必要がある。
- ・SSHの取組について、今年度から海外研修も始まり、グローバルな視点を持つ生徒を育成することは、今後に期待が持てる。また、地域との交流も盛んになってきていることも大切なことである。地域に根ざした研究テーマ（例えば、イルカ等）もあり、ぜひ、地域と協働して研究し、その成果を地域に還元して欲しい。また、この取組等を通じて、生徒のプレゼンテーション能力をもっと伸ばしてほしい。

5 総合評価

- ・生徒アンケートの中で、生徒の心と身体の健康についての配慮がなされている、という項目の評価が上がっていた。生徒への面談を定期的に行うことで、心の内面の悩みや学校生活での不安について、細やかな対応ができたものとする。
- ・講演、講話等の有益感、充足感については、1年生の数値が高い。1年生に対しては、SSH研究の一環として「天草学連続講義」（計8回）をはじめとする講演等が数多く開催され、地元天草への興味・関心を高めながら、講義内容を自らの知見として取り入れる姿勢・態度が育まれたためと考えられる。
- ・ホームページ等を活用した積極的な情報発信について、HP更新に至る手続きの簡素化に着手し、HP更新のペースが早まった。本年度は学校行事だけでなく、日常の学校生活の中での話題も積極的にHPで紹介し、ほぼ毎日の更新ができた。また、一斉メールを活用して保護者への周知を積極的に行い、アクセス数を大きく伸ばした。
- ・あいさつについては、今年度、生徒会の発案であいさつ月間を設定した。月間に先立ち、生徒会執行部が生徒朝会において、自校でのあいさつの現状や目指す方向性などを示しながらその重要性を生徒間で共有し、アンケートなども活用しながら運動を展開した。

6 次年度への課題・改善方策

- ・生徒の読書時間が減少傾向にある。日課の変更等の影響もあるが、朝読書への取組の啓発活動に力を入れ、思考力や表現力の向上を目指す必要がある。
- ・交通安全関連の取組については特に評価が高かったが、交通違反の件数は前年より減少したものの、複数件発生しており、今後も安全教育を推進する必要がある。
- ・進路指導に関する学校と家庭との連携については、12月実施の3年生のアンケートでは他の学年よりも評価が高い。本校の使命として、生徒の進路目標の実現に向け、三者面談等を経て生徒・保護者と担任が密に関わり合い、更なる信頼感を高める必要があると考えられる。